



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2014年11月号(518号)》

目 次

報 告	
・ 常任司教委員会	1
・ 典礼委員会	3
・ 諸宗教部門	5
・ 難民移住移動者委員会	6
・ カリタスジャパン	8
・ 正義と平和協議会	9
・ 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会.....	11
・ 部落問題に取り組むキリスト教連帯会議	11
・ HIV/AIDS デスク	12
・ 中央協議会事務局(総務)	13
公文書	13

常任司教委員会

■9月定例常任司教委員会

日 時 2014年9月4日(木) 10:00-15:15
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 委 員 6人
事務局 7人

報 告

1. 教皇フランシスコ訪日要請に関する教皇庁訪問について
7月の常任司教委員会決定を受けて、司教協議会岡田会長と高見副会長が、教皇フランシスコ訪日要請のために、2014年7月26日-29日まで教皇庁を訪問した報告が岡田会長より行われた。
2. ミサの平和のあいさつについての教皇庁典礼秘跡省からの回状について
2008年5月に教皇庁典礼秘跡省から、ミサの平和のあいさつの位置を変更する可能性について各司教協議会に意見が求められたため、日本からは、現在の位置を保つことが望ましいとの返答を送付した。本年7月12日付書簡にて、同省から「ミサの平和のあいさつに関する回状」が送付され、「平和のあいさつ」は現状のままとすることに加え、留意点が添えられていた。回状で指摘された諸点は、改訂中の『ミサ典礼書』の発行に合わせて出版する予定の司式者用手引きに記載する。
3. 第3回臨時シノドス提出文書について
第3回臨時シノドスの発表のための文書を提出したことが岡田会長から報告された。禁教時代の信仰の継承から現代の教会の信仰の継承について、および現代の日本の家庭の問題点、現代の日本の教会の試みと提案を記載して提出した。
4. FABC 神学関係局会議について
2014年5月5日-11日にインドネシアのデンパサールで開催された神学関係局の会議に参加した櫻井尚明師から報告書が届いた。同会議では2015年に開催される研修会の準備を行った。
5. 東日本大震災に関するカリタスジャパンの対応について
東日本大震災にあたっての、現在までの募金状況と活動状況がカリタスジャパン・菊地 功司教から報告された。8月31日現在のカリタスジャパンへの募金は、848百万円、国際カリタスからの募金が1123百万円で計1971百万円、援助金支出は、1506百万円となった。
6. 中央協議会口座の東日本大震災復興義援金残高について
8月31日現在の中央協議会口座の東日本大震災関連・義援金残高報告が行われた。義援金総額は73,541,648円、支出合計は、47,269,236円、残高は26,272,412円となった。
7. 高山右近殉教400年祭記念ミサ概要について
「神のしもべ ユスト高山右近殉教400年記念ミサ」を列聖推進委員会主催、大阪大司教区共催で2015年2月3日に神戸文化ホールで行うことが報告された。
8. 広島教区災害被害状況について
前田万葉被選大司教より、8月20日に起こった、広島教区での土砂災害の被害状況と対応状況が報告され、各教区からの支援に対する感謝が述べられた。また、大阪教区大司教任命にあたっての謝意も表された。

審 議

1. 2014年度特別臨時司教総会について
2014年度特別臨時司教総会では、以下の審議事項を取り扱う。
 - ① 「叙階の祈り」の旋律に関する件
 - ② 学校教育委員会委員長の確定
 - ③ 列聖推進委員会からの提案事項
2. 日本司教団のアド・リミナに向けての準備について
2015年3月の日本司教団のアド・リミナに向けての準備として、司教協議会としての報告書の作成、全司教で訪問する省庁などの予約などについて準備を進める。
3. イラク北部の迫害と暴力に対する全世界の教会での祈りの協力について
イラク北部の人々の人道的危機に直面し、フランシスコ教皇が8月7日に教皇庁・広報局長を通して発信した、「過酷な被害を受けている共同体のために声をそろえて祈り続けてほしい」という全教会へのアピールに応え、日本においては、アシジの聖フランシスコ修道者の記念日翌日の2014年10月5日（日）に上記意向で祈ることを決定した。また、典礼委員会から提出された祈り文を承認し、各教区に通知するとともに、中央協議会ウェブサイトでも公表する。
4. 「ローマ・ミサ典礼書の総則」改訂訳の公表方法と時期について
2014年5月28日付で教皇庁典礼秘跡省から認証を受けた「ローマ・ミサ典礼書の総則」改訂訳には、「ミサの式次第」からの引用が含まれているが、式次第の認証がまだ届いていないため、「ミサ総則」改訂訳

の中で、早期に実施しても混乱を招かない改訂や適応に限って公表し、周知することを承認した。具体的には、2015年2月の司教総会に公表可能な改訂や適応とその解説を提出する。

5. 「日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針」の発行について
2014年6月26日付で教皇庁典礼秘跡省から認証を受けた「日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針」をカトリック中央協議会から発行することと、発効期日を2014年11月30日（待降節第1主日）とすることを承認した。
6. 「奉献文に挿入する聖ヨセフの名」の日本語の公表について
2014年6月26日付で教皇庁典礼秘跡省から認証を受けた「奉献文に挿入する聖ヨセフの名」の日本語訳の公表にあたっての教令と発効期日を2014年11月1日（諸聖人の祭日）とすることを承認した。各教区本部事務局、修道会宣教会事務局、カトリック新聞、カトリック中央協議会ウェブサイトなどを通じて周知する。
7. 福者ペトロ岐部司祭と187同志殉教者の固有典礼式文と記念日について
教皇庁典礼秘跡省からの指摘を受けて修正した、福者ペトロ岐部司祭と187同志殉教者の集会祈願の日本語訳を承認し、「教会の祈り」読書第2朗読とともに、教皇庁典礼秘跡省に提出する。また、福者ペトロ岐部司祭と187同志殉教者を7月1日に義務の記念日として祝うことを、教皇庁典礼秘跡省に正式に提出することを承認した。
8. 「列聖推進委員会」の任務の確認について
本常任司教委員会で出された意見を加味して修正した、列聖推進委員会の職掌に関する文書を承認した。
9. 『司牧に関する法規の手引き』の内容承認について
2014年度定例司教総会で常任司教委員会に最終確認を依頼された『司牧に関する法規の手引き』については、本日指摘のあった箇所を修正し、10月常任司教委員会で再検討を行う。
10. 2015年度予算作成にあたっての司教協議会としての年間活動方針について
本常任司教委員会で諸意見に基づいて修正した「日本カトリック司教協議会2015年度活動方針」を10月の常任司教委員会で確定し、2014年度特別臨時司教総会で報告する。
11. 中央協議会発行出版物の企画承認について
 - ①出版審議会から提出された以下の書籍を中央協議会から発行することと出版企画書を承認した。
書籍名 ミサの式次第 増補版
内 容 現行の『ミサ式次第』の付録に「種々の機会のミサの奉献文（試用版）」の内容を増補して出版。
 - ②出版審議会から提出された、以下の書籍の出版準備企画書を承認した。
書籍名 毎日の祈り（仮題）
内 容 「教会の祈り」（聖務日課）の「朝の祈り」と「晩の祈り」を典礼暦に合わせて編集し、月刊誌として提供する。

典礼委員会

■定例会議

日 時 2014年9月1日（月）9:00－11:10
場 所 御聖体の宣教クララ修道会 軽井沢修道院（長野・北佐久郡）
出席者 9人
欠席者 2人

報 告

典礼関係の儀式書の重版について

出版部より『聖週間の典礼』が重版されたとの報告があった。『病者の塗油』は近日中に重版の予定。

審 議

1. 2014年度全国典礼担当者会議について

今会合後に開催する掲記会議のスケジュール、進め方、役割分担について確認した。

2. 「ローマ・ミサ典礼書の総則」改訂訳の公表について

5月28日付で教皇庁典礼秘跡省より認証を受けた掲記改訂訳について、諸外国での実践例を参考に、早期に公表して導入できる改訂や適応について検討した。今会合で出された意見と合意の結果を9月の常任司教委員会に提案する。

3. 「日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針」の公表について

6月26日付で教皇庁典礼秘跡省の認証を受けた掲記指針について、司教協議会会長名で公表する教令と解説（案）の検討を行った。修正した資料ならびに発効期日を9月常任司教委員会に提出する。

4. 「奉献文に挿入する聖ヨセフの名」の日本語訳の公表について

6月23日付で教皇庁典礼秘跡省より認証を受けた「奉献文に挿入する聖ヨセフの名」の日本語訳を公表する教令（案）について、発効期日を決定し、9月の常任司教委員会に提案する。

5. 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者の集会祈願と記念日について

教皇庁典礼秘跡省から7月21日付で指摘を受けた掲記集会祈願について、今会合での意見と合意事項をもとに修正した資料を、9月の常任司教委員会に提案する。あわせて、7月1日を日本固有の義務の記念日として祝うことへの対応について報告を行う。

6. 「平和を求める祈り」について

教皇フランシスコが、イラク北部の迫害と暴力に対して全世界の教会での祈りを呼びかけたことを受けて、司教協議会会長より当委員会に祈願の作成が依頼された。今会合で検討し、修正した祈願を9月の常任司教委員会に提案する。

7. ミサの「平和のあいさつ」に関する典礼秘跡省からの回状について

本年7月12日付で教皇庁典礼秘跡省より送付された掲記回状による「平和のあいさつ」に関する指摘について、現在準備中の「ミサの新しい手引き－司式者用」で説明する旨、9月の常任司教委員会で報告する。

次回定例会議 2014年11月17日（月）10:00－15:30 日本カトリック会館

■2014年度全国典礼担当者会議

日時 2014年9月1日（月）14:00－3日（水）12:00

場所 御聖体の宣教クララ修道会 軽井沢修道院（長野・北佐久郡）

出席者 32人

欠席者 1人

テーマ 「自己流のミサの司式になっていませんか？－『総則』に沿ったミサの司式とは－」

<9月1日>

司祭がミサを司式する際、「ローマ・ミサ典礼書の総則」や典礼注記（ルブリカ）の解釈の違いなどによって、司式の仕方や動作・所作などが異なっている現状がある。今担当者会議では、司式に際して必要な統一を保ち、簡素でありながらも美しいミサとなるよう、典礼注記や「総則」の中で見落とされやすい点や忘れられがちな点を確認する機会とした。

まず、当委員会の活動報告を行った後、秘書が2002年版の「総則」が発行されるまでの歴史について説明した。続いて、南雲、フランコ両委員がそれぞれの経験に基づいて、「総則」と典礼注記の神学的意味について解説した。

<9月2日>

「『総則』改訂版に基づく確認と課題」と題して、「香部屋（祭具室）の管理はどのようにしていますか？」などの具体的な問いかけとともに、秘書が「ミサの準備・開祭」「ことばの典礼」「感謝の典礼」の各部分について解説を行った。参加者からも意見や質問が出され、委員が逐次回答した。

午後には各教会管区別の話し合いの場が設けられ、各教区の情報交換や、『典礼憲章』発布 50 周年記念講演会の企画についてなどが話題として取り上げられた。

<9月3日>

前日に引き続き、『総則』改訂版に基づく確認と課題の「感謝の典礼」、「閉祭」、および「今後の展望」についての解説と、質疑応答が行われた。最後に、閉会のミサで終了した。

■『典礼憲章』発布 50 周年記念講演会

日 時 2014年9月23日(火・祝) 10:00-15:30
場 所 長崎カトリックセンター ホール(長崎市)
参加者 約270人
テーマ 「典礼刷新—これまでとこれから」

第2バチカン公会議の『典礼憲章』発布50周年を記念し、昨年11月に東京で開催した講演会の第2回目として、長崎教区典礼委員会の協力のもと実施した。

まず、フランコ・ソットコルノラ委員(聖ザベリオ宣教会司祭)が『『典礼憲章』発布50年の節目を迎えて』と題して、『典礼憲章』21条にあるように、典礼刷新が教会の典礼生活そのものの真の司牧的、精神的刷新を意図していたことを、公会議当時、同師が実際に携わった経験をもとに紹介した。刷新のおもな分野は①典礼の神学、②教会生活における典礼の中心的位置、③神の民全体の「典礼への行動的参加」の大原則、④司祭と信徒の養成に及び、神のことばの重視、洗礼志願期の再導入などに反映された。今後の課題として、特に日本におけるインカルチュレーションを念頭に置いて、典礼のありかたを神道や禅、茶道などを通してとらえ直す必要性についても提言がなされた。

続いて、石井祥裕委員(上智大学非常勤講師)が「典礼運動を指導した人々とその思い—今、私たちに問いかけるもの」と題して、公会議を準備することになった典礼運動の歩みを振り返った。典礼運動とは、典礼の刷新と促進、そしてそのかなめとしての「参加」を、教会生活の中心目標として掲げ、実践を試み、研究と思索を深めたものである。その胎動が18世紀末の司牧的教育的な典礼への関心から見られ、20世紀初めの教皇ピウス10世の呼びかけなどを経て『典礼憲章』や『教会憲章』によって集約したことを説明し、各時代で尽力したドイツ、フランス、ベルギーなどの主な神学者や修道会の働きについても紹介した。

午後には、市瀬英昭委員(神言修道会司祭)が「新しい福音宣教における典礼の意義—『行動的参加』の観点から」と題して、「信仰年」を機に掲げられた新しい福音宣教を推進するうえで、典礼がどのように貢献できるかについて説明を行った。会衆の「行動的参加」は典礼注記(ルブリカ)の変更によってもいっそう促されるようになったとの紹介があり、『福音宣教』『愛の秘跡』『福音の喜び』などの教皇文書に見られるように、教会が宣教を行ううえで、キリストとの出会いの場である典礼祭儀が重要であり、典礼と宣教の結びつきをさらに深める必要があると強調した。

その後、各講演を受けての質疑応答が行われ、内容以外の司牧の現場での疑問に関しても各講師が丁寧な回答を行った。

諸宗教部門

■シンポジウム「人生の秋を見つめる —諸宗教からのメッセージ—」

日 時 2014年9月15日(月・祝) 14:00-17:00
場 所 上智大学2号館(東京・千代田区)
参加者 約180人

2011年より、宗教者が「自死」について語り合うシンポジウムを開催しており、今年は「高齢化社会を豊かに生きる」ことをテーマに、上智大学カトリックセンターと共同開催した。パネリストは島菌 進さん（神道－上智大学神学部特任教授）、武田なほみさん（キリスト教－上智大学神学部准教授）、奈良康明師（仏教－曹洞宗大本山永平寺西堂）の三人で、第一部では各パネリストから約30分の発題を、第二部では会場からの質問を受け、質疑応答と対談を行った。

第一部で島菌さんは、まず自身が神道学者の立場でありながら、家庭においてはキリスト教や仏教などまさに諸宗教の中で育ってきた経緯を紹介した。そして、仏教やキリスト教はあの世とこの世が感覚的に遠いのにに対し、神道はとても近いと述べ、年をとると神様になり、冬を通り越して春になり、また子どもとして生まれ変わるという「いのちの循環する世界」の中で、人生の秋を味わう大切さを語った。

次に武田さんは、聖書に書かれている言葉を引用しながら、長寿に恵まれることは神の祝福であると語った。自身の家族の介護の経験談やそれにおける自分自身の考えを踏まえながら、人間は霊によって息吹かれ、生かされていることに気づくと、年をとったからできないのではなく、生涯のどの時点においても霊によって可能性は開かれていることに気づき、また、そうした神の業に身をゆだねることが大切であると述べた。

最後に奈良師は、「老いを平気で生きる」というテーマで、仏教における基本思想の「縁起思想」について、物事はすべて何かしらの「因」（原因）と、その因が結果をもたらすことを助ける「縁」（条件）によって生じると説明した。さらに、秋であること（現実）の受容の大切さと、それを豊かに生きるためには、他者に奉仕すること、つまり生きがいを見つけることが重要であると、具体的な例を用いながら参加者に勧めた。

第二部では、年をとるとかたくなになることや煩悩（欲望）が消えないのは祈りが足りないからか、死んだらどうなるのか、といった質問が寄せられ、かたくなになることがすべて悪いわけではないこと、人間の煩悩や欲望は無くすのではなく抑制することが必要であること、そして死後の世界については各々の宗教の観点から語られた。質問にはパネリストの他に岡田武夫大司教（責任司教）も答え、そして、人生における宗教、また信仰することの力や助けがいかに重要かについても話題が及んだ。

難民移住移動者委員会

■2014年度第4回事務局会議

日 時 2014年9月9日（火）10:30-12:00

場 所 日本カトリック会館 会議室5

出席者 4人

報 告

1. 発送業務について

- ・「船員の日」（7月13日）のポスター、委員長メッセージ、AOSニュース発送について全国の教区事務所、小教区、修道院あてに6月13日付で発送を完了した。
- ・「世界難民移住移動者の日」（9月28日）のポスター、メッセージの発送について全国の教区事務所、小教区、修道院、教育機関あてに8月28日付で発送を完了した。
- ・「全国研修会 in 坂出」（10月27日-29日）のポスター、案内書、申込用紙発送について全国の小教区、修道院あてに9月5日付で発送を完了した。

2. 中国人司牧について

これまで中国人司牧について委員会として取り組む機会がなかったが、昨今、滞日中国人、特に中華人民共和国の信徒が増えていると聞いており、まずは情報収集より検討する。

審 議

「第2回定例委員会」の議題について

本日午後開催予定の「第2回定例委員会」議題について、詳細確認を行った。

■2014年度第2回定例委員会

日 時 2014年9月9日(火) 13:00-16:00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 12人

欠席者 2人

報 告

1. 発送業務について
「第4回事務局会議」参照
2. 2014年度年間予定のスケジュール未定分(2015年3月まで)について、下記の予定が決定した。
2015年1月20日(火)10:00 事務局会議(東京)
2月12日(木)10:30 事務局会議(東京)、13:00 定例委員会(東京)
3月13日(金)15:00 事務局会議(東京)
3. 「世界難民の日2014」シンポジウムについて
6月20日(金)14時-17時、幼きイエス会ニコラ・バレ修道院にて、特定非営利活動法人なんみんフォーラム(FRJ)主催で開催された。当委員会は、後援団体。参加者は130人。松浦悟郎司教が「人間の尊厳からの難民支援」と題し、講演した。
4. 「全国研修会 in 坂出」について
10月27日(月)-29日(水)にカトリック坂出教会(高松教区)で開催。プログラムなど詳細について確認した。
5. 「AOS 船員司牧全国会議」について
今年度の全国会議については、コアメンバーが出張などで多忙のため、後日検討する。
6. 「東京教会管区セミナー」について
11月22日(土)にカトリック長野教会(横浜教区)で、ダブルの子どもたちの教育に関する講演を行うプログラムを検討し、準備を進めている。
7. 「長崎教会管区セミナー」について
11月9日(日)13:00-16:30、カトリック大名町教会(福岡教区)で「信仰と癒し」をテーマにプログラムを準備する。

審 議

1. 現段階での課題整理と今後の計画について
12月1日(月)-2日(火)に行われる「全国担当者会議」での講演会開催などについて、検討した。
2. 2015年度全国研修会の候補地について
8月末に長崎教会管内の委員会担当者で話し合い、長崎教区での開催準備を進めることになった。開催日時、場所については、後日検討する。
3. 2015年度活動計画案について、詳細を審議した。
4. FAX NEWS 瓦版クリスマス号の記事検討について
寄稿者の検討を行い、寄稿依頼する。
5. その他
「移住者・外国人に関わるアドボカシー(政策提言)・啓発プロジェクト」(仮称)として、委員の山岸さんを中心に外国人労働者問題、非正規滞在者の合法化への取り組み、ヘイトスピーチ・排外主義をなくす取り組み、国際人権に関する取り組みなどを行う。今後のスケジュールとして、山岸委員に次回の事務局会議に参加してもらい、プロジェクトを進める。また、山岸委員に対して、プロジェクトにかかわ

る費用や交通費を支給することになった。

カリタスジャパン

■第3回援助部会会議

日 時 2014年9月16日（火）10：00－16：00

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 10人

報 告

1. 前回議事録を承認。
2. アフリカ（ウガンダ、ケニア）視察（8月3日－17日）
持続的農業プログラムと気候変動対策プロジェクトの現地視察を行い、今後の実施内容について協議。
3. 東日本大震災対応、募金・援助金収支について報告された。
4. 広島土砂災害対応について
5. 2014年度援助実績について
6. 事務局より、反貧困キャンペーン進捗、2014年四旬節献金、全国教区担当者会議準備状況について

審 議

1. 来年度予算立案について活動計画を話し合った。
2. 国連防災世界会議in仙台（2015年3月14日－18日）への対応について話し合った。
3. フィリピン台風災害救援募金受け付けを10月末で終了する。
4. 援助審査 8件（国内4、海外4）を審査、以下6件を承認、1件を保留、1件を却下とした。
 - (1)カトリック東京ボランティアセンター「2014年度補正予算（仮設見回りスタッフ追加）」2,722,734円
 - (2)隅田川医療相談会「医療相談会実施」720,600円
 - (3)きらきら星ネット「震災・原発事故による東京避難家族と子ども支援」1,941,000円
 - (4)パキスタン「アフガン難民教育支援」9,326 USドル（上限）
 - (5)国際カリタス「本部事務局プログラム（食糧安全保障と気候変動対策）」10,000ユーロ
 - (6)国際カリタス「本部事務局プログラム（緊急人道支援）」10,000ユーロ
5. 国際カリタス緊急支援要請（Emergency Appeal/EA）以下8件の支援を決定した。
 - (1)シエラレオネ「エボラ出血熱緊急支援（EA21/14）」10,000ユーロ
 - (2)ウクライナ「ウクライナ危機緊急支援」10,000ユーロ
 - (3)ネパール「洪水災害緊急支援（EA23/14）」10,000 USドル
 - (4)インド「洪水災害緊急支援（EA24/14）」10,000 USドル
 - (5)パキスタン「ワズィーリスターン州一時的避難民緊急支援（EA25/14）」10,000 USドル
 - (6)レバノン「シリア難民支援第4期（EA26/14）」10,000 USドル
 - (7)南スーダン「紛争被災者支援（EA27/14）」20,000 USドル
 - (8)バングラデシュ「洪水災害緊急支援（EA28/14）」10,000 USドル

次回日程 2014年11月5日（水）10：00－15：00 日本カトリック会館

正義と平和協議会

■第38回カトリック正義と平和全国集会2014福岡大会

日時 2014年9月13日(土)14:00-15日(月・祝)13:00

場所 カトリック大名町教会(福岡教区)、他

参加者 約850人

テーマ いのちを大切にする社会をめざして ー見て、聞いて、知って、働くー

第1日

- ・基調講演「東アジアの平和と福音的展望 韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢見ながら」
講師 姜 禹一司教(韓国済州教区教区長)
姜司教は、始めに4月の旅客船セウォル号の沈没事故が韓国社会に与えた大きな苦しみと影響について語り、8月に訪韓した教皇フランシスコが遺族たちに示した心遣いに人々が慰められたことを語った。そして過去の日本の植民地支配、4・3事件など、済州島の歴史と人々の苦難を語った。苦しむ人々に寄り添う証として、現在はカンジョン村の海軍基地建設反対運動にカトリック教会としても取り組んでいる話、またベトナム戦争時に韓国軍が多数ベトナムに派兵され、現地住民を虐殺した歴史に謝罪をした体験など話した。国家権力が人権を侵し、それを隠蔽してきたという事実を明らかにしていくことがキリスト者の使命ではないか、市民たちが国籍や国境を越えて連帯していくことが救いにつながると結んだ。
- ・高校生平和大使の呼びかけ
- ・交流会

第2日

- ・主日ミサ
- ・ミニ講演会 「イエスが望む教会と社会との関わり」
講師 マイケル・シーゲル師(神言修道会)
シーゲル師は教皇フランシスコの著書や聖書から「正義と平和」の意味を語った。教会は人間の尊厳を基本に日々の生活の中で現実の問題に取り組んでいくべきであると話した。
- ・分科会、現地学習会
 - 第1分科会「日韓の歴史認識をめぐる現状と課題について」
 - 第2分科会「死刑廃止問題 死刑囚と出会う」
 - 第3分科会「薬物依存からの脱却 九州ダルク19周年記念フォーラム」
 - 第4分科会「福島の実況、福島支援」
 - 第5分科会「憲法と私たちの生活 イエスの目を通して」
 - 第6分科会「キリスト者として働くこと」
 - 第7分科会「滞日外国人問題 外国人の実況について」
 - 第8分科会「障害者問題 教会は野戦病院です」
 - 第9分科会「女性と子どもの問題 DV問題と子どもの影響」
 - 第10分科会「世界の貧困問題 カリタスジャパン反貧困キャンペーン 五つのパンと二匹の魚」
 - 第11現地学習「ホームレス支援 キリストに出会う、ホームレス支援の現場を訪ねて」
 - 第12現地学習「玄海原発に異議あり それでもあなたは原発を選びますか」
 - 第13現地学習「水俣」
 - 第14現地学習「築豊 強制連行が残した足跡から日韓交流を学ぶ」
 - 第15現地学習「下関 日本とコリアの友好を」
 - 第16現地学習「菊池恵楓園 ハンセン病について学ぶ」
- ・テゼの祈り
- ・ネットワークミーティング

第3日

- ・シンポジウム「いのちを大切にできる社会とは」

講師 奥田知志牧師（日本バプテスト連盟、NPO法人「抱樸」理事長）

大塚喜直司教（京都教区司教）

長年ホームレス支援にかかわっている奥田牧師の現場の報告から始まり、大塚司教の教皇フランシスコの『福音のよろこび』のメッセージを通して「いのちを大切にできる社会」について考えた。奥田牧師はキリスト者としての東日本大震災の体験から「ともにいること」が救いにつながると語った。

- ・派遣ミサ

■NCC 女性委員会

日時 2014年9月10日（水）10:30-13:00

場所 日本聖公会 聖バルナバ教会（東京・新宿区）

出席者 カトリックから1人

報告

1. 各教派、団体
2. 各委員会

審議

1. 九条世界宗教者会議（12月2日-5日、東京）参加について
2. フォーラム「女性の視点で聖書を読む」企画について
3. 『ともに証を』55号編集について

■平和を実現するキリスト者ネット

日時 2014年9月10日（水）14:00-16:00

場所 富坂キリスト教センター 会議室（東京・文京区）

報告

1. 会計、賛同状況
2. 集会・行動の報告

第127回自衛隊海外派兵中止と脱原発を求める宗教者国会要請行動（平和をつくりだす宗教者ネットより）

2014年7月22日（火） 衆議院第2議員会館第3会議室

署名提出 324筆 総数 100,839筆

第128回自衛隊海外派兵中止と脱原発を求める宗教者国会要請行動（平和をつくりだす宗教者ネットより）

2014年8月20日（水） 衆議院第2議員会館第5会議室

署名提出 752筆 総数 101,591筆

審議

1. 第129回自衛隊海外派兵中止と脱原発を求める宗教者の要請行動（9月19日）のための要請メンバーを検討した。
2. 「9・23 さようなら原発大集会」役割分担について
3. ニュースレターの内容について
4. キャロリング・フォー・ピースは12月12日（金）聖公会神田教会に決まった。

外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）

■事務局会議

日 時 2014年9月18日（木）18：00－20：30

場 所 日本キリスト教会館（東京・新宿区）

出席者 カトリックから1人

報 告

1. 国連の人種差別撤廃委員会の日本審査は、8月20日－21日に行われ、勧告が出た。
2. 外国人被災者支援プロジェクトについて、カトリック新聞に掲載された。

審 議

1. 国際シンポジウムについて、役割分担と共同宣言の骨子について検討した。

日 時 2014年10月7日（火）－9日（木）

会 場 広島市国際青年会館

参加者 日韓の教会（各教派、各地外キ連から約40人）

テーマ 「未来への責任：東アジアの和解と平和」

この集会の途中で全国運営委員会を開催することになった。議題は、以下を扱う。

- ①2015年1月の全国協議会・全国集会の要項を準備
- ②外国人住民基本法の本年度署名用紙とパンフレットの増刷について
- ③改定入管法「3年後の見直し」
- ④外国人被災者支援プロジェクトについて
- ⑤日韓在日共同プログラム・シンポジウム合意事項の具体化
- ⑥ユースプログラム

2. 来年の全国協議会・全国集会の企画を検討した。

日 時 2015年1月29日（木）－1月31日（土）

会 場 在日大韓基督教会 小倉教会の予定

内容については、九州・山口外キ連との準備会で要項案を作成した。

講師依頼は外キ協が、食事・宿泊は九州・山口外キ連が担当する。

現地学習については筑豊の可能性を検討する。

3. その他

RAIK（在日韓国人問題研究所）の創立40周年の感謝記念会を、10月13日（月・祝）午後6時より神田の在日大韓基督教会で開催する。

部落問題に取り組むキリスト教連帯会議（部キ連）

■役員会

日 時 2014年9月11日（木）10：30－12：00

場 所 大阪クリスチャンセンター301（大阪市）

出席者 カトリックから1人

報 告

1. 議長報告

2. 狭山事件の再審を求める市民集会とキリスト者前段集会について

部キ連として出席者を一人派遣する。

日時 2014年10月31日(金)11:00-15:40

場所 日比谷公園野外音楽堂(東京・千代田区)

3. 研修委員会より以下の研修企画について

(ア)役員研修会

内容 大阪人権博物館見学とフィールドワーク

日時 2014年9月11日(木)13:00-16:00

場所 大阪人権博物館 リバティおおさか(大阪市)

プログラム 事前学習、フィールドワーク、食事、館内見学(第69回特別展『歴史の中の憲法』)

(イ)部落解放講座

内容 「水平社宣言」の成立事情と今日的意義-キリスト教との関係をめぐって

講師 朝治 武さん(大阪人権博物館館長)

日時 2014年9月11日(木)13:00-16:00

場所 日本キリスト教会 大阪北教会(大阪市)

4. 各教派の活動報告

カトリックからは、大島青松園の訪問活動を継続していること、11月16日-17日に対話集会を開催することを報告した。

HIV/AIDS デスク

■第3回 HIV/AIDS デスク会議

日時 2014年9月4日(木)15:00-17:00

場所 日本カトリック会館 会議室3

出席者 8人

特別参加 1人

報告

1. AIDS文化フォーラムin横浜の報告

8月1日-3日に開かれた第21回の来場者数は4,165人。2013年第20回の4,278人には及ばなかったが、2006年から2012年の来場者より多かった。

初登場の横浜雙葉中学校・高等学校茶道部が8月3日にお茶席を開き、好評だった。また、当デスクにサポーター登録をしている人が、展示ブースや発表会場を手伝ってくれた。

2. AIDS文化フォーラムin京都の準備状況について

事務局から当デスクに、10月4日の「宗教とAIDS」にカトリック司祭のパネリストを探してほしいという要望があり、一場 修師(マリスト会)に依頼した。当デスクは4日と5日、展示とワークショップに参加する。

3. トートバッグの評判について

しっかりしたキャンバス地で気に入ったという意見が多数届いている。

4. Facebookについて

閲覧者からの「いいね」がたくさん寄せられている。啓発活動を今後も進めていく。

5. 各教区報へのデスクのサポーター募集の掲載依頼状況

大阪教区に依頼した。今後、横浜と新潟教区など、順次、掲載を依頼する。

6. その他

京都AIDSキャンドルパレードの報告と礼状が、PLANET(HIVとともに生きる会)から届いた。

審 議

1. 関東地区カトリック学校小中高連盟宗教部会とのコラボ企画について
2015年2月7日に開催の今回のテーマは、当デスクが発行した小冊子の題名「HIV/AIDSについて話したことがありますか？」を使用する。講師は医師の岩室紳也さんに依頼した。当日14時からの流れについて話し合った。宗教科のみならず、養護や保健体育の教諭にも案内する。広報は稲畑さんに一任する。
2. 今年の世界AIDSデー企画について
今年は特別なものは企画せず、現在の啓発活動を続けていく。
3. AIDSデー記念礼拝(2014年11月30日)について
第20回なので、当デスクからも広報し、参加人数を増やす努力をする。
4. 正義と平和全国集会 2014 福岡大会の配布資料について
参加者に配布する封筒に同封してもらうため、小冊子、ミニカード、デスクの紹介文を900部準備する。

次回日程 2014年11月19日(水) 15:00-17:00 日本カトリック会館

中央協議会事務局

■総務

11月会議予定

5日(水)	カリタスジャパン援助部会	日本カトリック会館
5日(水)	第3回諸宗教部門会議	〃
6日(木)	常任司教委員会	〃
11日(火) - 13日(木)	第20回日韓司教交流会	韓国(ソウル)
17日(月)	典礼委員会定例会議	日本カトリック会館
19日(水)	HIV/AIDS デスク会議	〃
21日(金)	列聖推進委員会	〃
27日(木)	カリタスジャパン啓発部会	〃

<会報 2014年11月号 公文書>

2014年世界宣教の日 教皇メッセージ

2014年「世界宣教の日」教皇メッセージ

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

今日、大多数の人々はまだイエス・キリストを知りません。そのため、人々への宣教は引き続き緊急の課題となっています。教会のすべての構成員はこの使命に参加するように呼ばれています。なぜなら教会はその本質上、宣教者であり、「出かけて行く」ために生まれてきたからです。世界宣教の日は、さまざまな大陸の信者たちが、宣教地の若い教会を祈りと具体的な連帯の行動によって支援する特別な日です。そしてそれは恵みと喜びの祝日でもあります。それが恵みの祝日であるのは、御父がお遣わしになった聖霊が、その働きに従順な人々に知恵と力を与えてくださるからです。それが喜びの祝日であるのは、御父の子であり、世界に福音をのべ伝えるために遣わされたイエス・キリストが、わたしたちの宣教の努力を支え、ともに歩んでくださるからです。イエスと派遣された弟子たちのこの喜びに導かれ、わたしはルカによる福音書にある、聖書の中の一つのアイコンを示したいと思います（ルカ 10・21-23 参照）。

1 主は神の国が近づいたことを告げ知らせ、人々をイエスとの出会いに備えさせるために、七十二人の弟子たちを二人ずつ、町や村に送り出したと、福音記者は記しています。この使命を果たした後に、弟子たちは喜びに満ちあふれて戻ってきます。喜びこそ、この最初の忘れがたい宣教経験の主要なテーマなのです。しかし主はいわれます。『悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい』。そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれていわれた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。…』それから、イエスは弟子たちの方を振り向いて、彼らだけにいわれた。『あなたがたのしているものを見る目は幸いだ』（ルカ 10・20-21、23）。

ルカは三つの場면을提示しています。イエスはまず弟子たちに話され、それから御父に、そして再び弟子たちに語りかけられます。イエスは、弟子たちにご自身の喜びを分かち合うことを望まれたのです。それは彼らがそれまでに経験したいかなる喜びとも異なり、またいかなる喜びよりも大きなものでした。

2 弟子たちは喜びに満たされ、人々を悪霊から解放することのできる力に興奮していました。しかしイエスは、彼らは自分たちが受けた力のためではなく、自分たちが受けた愛のゆえに喜ぶべきだと諭しました。「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」（ルカ 10・20）。弟子たちは神の愛の経験を与えられたのですが、それだけでなく、その愛を分かち合う可能性をも与えられたのです。そしてこの経験が、イエスの心の中で感謝と喜びのもととなっています。ルカはこの喜びを三位一体全体の中で捉えていました。御父に向かい、ほめたたえていたとき、「イエスは聖霊によって喜びにあふれて」いました。この深い喜びのひとつは、これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになった、天地の主であるご自分の父（ルカ 10・21 参照）に対する、子としての深い愛から生まれたものです。神は隠し、また同時にお示しにもなったのですが、この賛美の祈りの中では、示されることの方が際立っています。神が示し、また隠されたものとは何でしょうか。それは神の国の神秘であり、イエスにおいて現わされた神の支配とサタンへの勝利でした。

神はこれを、傲慢で、すでにすべてを知っていると主張する人たちから隠されたのです。彼らはその厚かましきさによって盲目となり、彼らには神を受け入れる余地がありません。そのような人として、イエスがたびたび戒めた当時の人々の何人かをすぐに思い浮かべることができるかもしれません。しかし、こうした危険はいつの時代も存在するのであり、わたしたちにとっても他人ごとではないのです。その一方、「小さな人々」とは、謙虚な人、素朴な人、貧しい人、弱い立場に追いやられている人、声を上げることができない人、疲れた人、重荷を負っている人であり、イエスは彼らを「幸いな人々」といわれたのです。わたしたちはすぐに、マリア、ヨセフ、ガリラヤの漁師たち、またイエスが宣教に出られたときに呼ばれた弟子たちを思い浮かべます。

3 「そうです、父よ、これはみ心にかなうことでした」（ルカ 10・21）。このイエスのことばは、イエスの心の中の大きな喜びを指しているものとして理解しなければなりません。「み心」というのは、御父の人類に

対するあわれみ深い救いの計画のことです。御父は、御子に対する愛と同じ愛をもって人々を愛することを望まれたので、イエスはその恵み深さに喜ばれたのでした。ルカはマリアの同じような喜びにも言及しています。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます」(ルカ 1・46-47)。これこそが、救いに導く福音です。福音の最高の告知者であるイエスを身ごもったマリアは、エリサベトに会い、マグニフィカトを歌いながら、聖霊のうちに歓喜に包まれます。イエスは、弟子たちの宣教の成功とその実りである喜びをご覧になり、聖霊によって喜びにあふれて、御父への祈りをささげました。どちらの場合も、救いの働きによる喜びであり、御子を愛する御父のその愛がわたしたちに達する喜びです。そして、その喜びは聖霊を通してわたしたちを満たし、三位一体のいのちにあずからせてくれるのです。

御父は喜びの源です。御子はその現れであり、聖霊はその与え主です。福音記者マルコによれば、イエスは御父をたたえた後、すぐにこのように述べています。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしのくびきを負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ 11・28-30)。「福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします。イエスの差し出す救いを受け入れる者は、罪と悲しみ、内面的なむなしさと孤独から解放されるのです。喜びは、つねにイエス・キリストとともに生み出され、新たにされます」(使徒的勧告『福音の喜び』1)。

おとめマリアは、イエスとのこの出会いをほかにはない形で経験し、「わたしたちの喜びの源 (causa nostrae laetitiae)」となりました。一方弟子たちも、イエスに従うよう、またイエスに派遣されて福音をのべ伝えるよう招かれ(マルコ 3・14 参照)、喜びで満たされました。わたしたちもまた、このあふれる喜びに飛び込んでいくべきです。

4 「多様で圧倒的な消費の提供を伴う現代世界における重大な危機は、個人主義のむなしさです。このむなしさは、楽なほうを好む貪欲な心をもったり、薄っぺらな快樂を病的なほどに求めたり、自己に閉じこもったりすることから生じます」(『福音の喜び』2)。ですから、人類はキリストがもたらした救いをくみ取ることが大いに必要なのです。弟子というのは、イエスの愛によってよりいっそう捕えられ、神の国への情熱と福音の喜びを告げ知らせることへの情熱の炎に燃える人々です。主のすべての弟子たちは、福音化の喜びをはぐくむよう呼ばれているのです。司教たちは福音宣教の第一の責任者として、地方教会が一つになって宣教に取り組むよう促す務めを担っています。イエス・キリストを伝える喜びは、もっとも遠い地域、自教区の中心から遠く離れた地域でイエスを常に告げ知らせることに心を向けることの中に現れることを、司教たちは認識するよう求められています。そこでは、多くの貧しい人々が福音の知らせを待ち望んでいるのです。

世界の多くの場所では、司祭職や奉獻生活への召命の不足に見舞われています。しばしばこれは、熱意を欠き、そのために魅力のなくなった共同体において、燃え移るような使徒的熱情が存在しないためです。福音の喜びは、イエスとの出会いと貧しい人々との分かち合いによって生まれます。そのためわたしは、小教区共同体や組織やグループに、イエスへの愛ともっとも恵まれない人たちの困窮への配慮に基づいた、真剣な兄弟愛を生きるように勧めます。喜び、熱意、そしてキリストを他の人々に伝えようとする望みのあるところにはどこでも、真の召命が現れるのです。これらの召命の中でも、信徒の宣教への召命を見過ごしてはなりません。教会の中で信徒のアイデンティティと使命への意識が高まってきており、福音を広める上で、彼らがより重要な役割を果たすよう呼ばれているという認識も深まってきています。したがって、効果的な使徒的活動のために、彼らは適切に養成されなければなりません。

5 「喜んで与える人を神は愛してくださる」(二コリント 9・7)。世界宣教の日は、諸国民への宣教に喜んで参加するという熱意と倫理的義務とを新たにする機会でもあります。個人の金銭的な貢献は、まず何より主に対する、そして人々に対する自己奉獻のしるしです。このようにして物質的なささげものは、愛の上に

築き上げられた人類の福音化の道具となることができます。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、この世界宣教の日にあたって、わたしの心はすべての地方教会に向けられています。福音化の喜びを奪われることがないようにしましょう。わたしは皆さんが福音の喜びに身を浸すよう、そしてご自分の召命や使命を明るく照らす愛をはぐくむよう招きます。さらに皆さん一人ひとりが、あたかも内的な巡礼をするかのように、主イエス・キリストが皆さんの心を温めてくださった「最初の愛」を思い出すよう強く勧めます。それは、昔を懐かしむためではなく、喜びのうちに耐え忍ぶためです。主の弟子は、主がともにおられるのを感じて、喜びながら耐え忍び、み心を行い、信仰、希望、福音的愛を人々と分かち合うのです。

つつましく、喜びに満ちた福音化の模範であるマリアの執り成しを通して祈りましょう。教会が人々を迎え入れる家、すべての人々の母、そしてわたしたちの世界の再生の源となりますように。

バチカンにて

2014年6月8日 聖霊降臨の主日
教皇フランシスコ

新刊書籍案内

※ 「使徒的書簡 女性の尊厳と使命」 教皇ヨハネ・パウロ二世

カトリック中央協議会 「会報」 2014年11月号 (通巻518号)

発行日 2014年10月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457